

## 新発見の線刻壁画

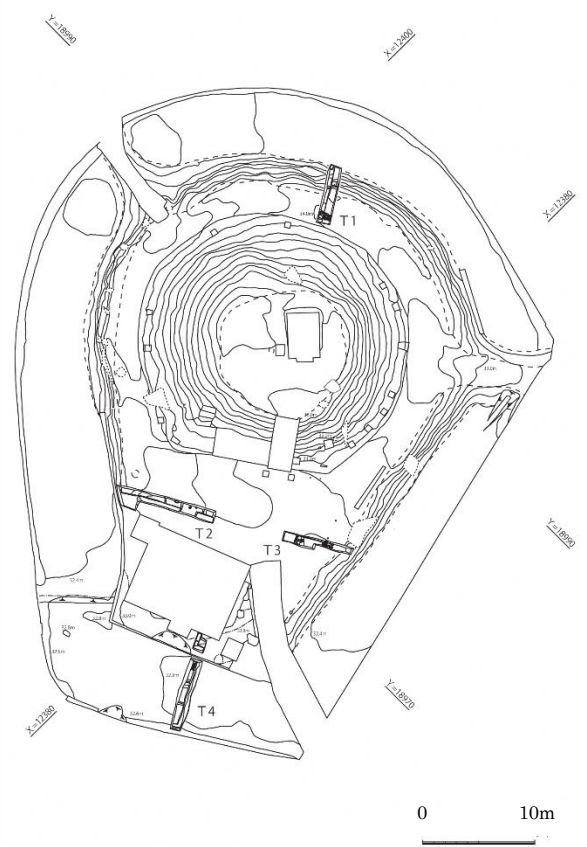
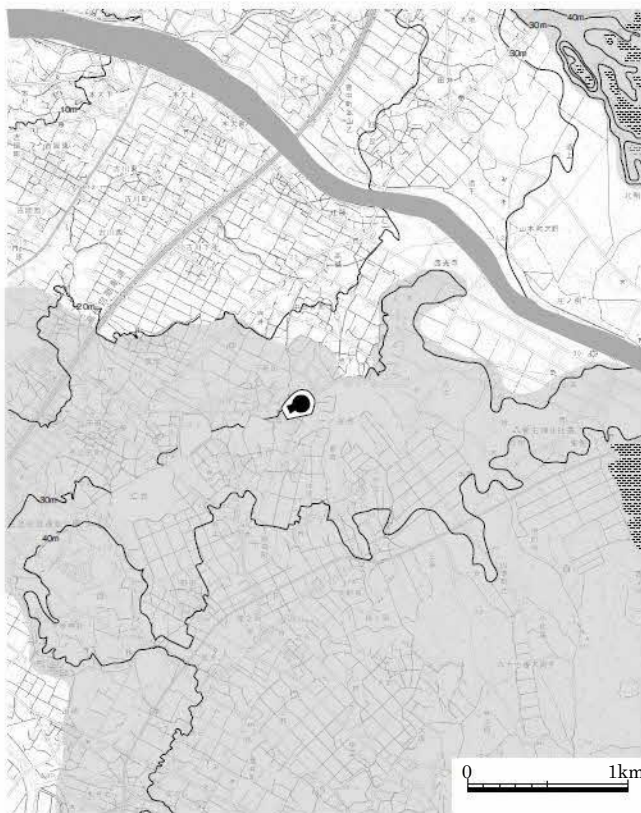
## —香川県観音寺市所在青塚古墳出土石棺及び石室破片の意義—

熊本県教育庁 福田 匡朗

## はじめに

香川県観音寺市に所在する観音寺市指定史跡青塚古墳は、5世紀中葉から後葉にかけて築造されたとされる、全長 44.4m の帆立貝式前方後円墳であり、三豊平野南半部の低丘陵地上標高 30m 前後に位置している。周濠、葺石、埴輪列を有する古墳時代中期のこの地域の有力な首長墓と考えられる（観音寺市 2019）。

筆者は、令和 5 年（2023 年）10 月に青塚古墳出土遺物の資料調査を行った。平成 28 年（2016 年）8 月に実施された確認調査トレンチから出土した石棺破片及び石室破片に新発見の線刻壁画を確認したため、その意義を報告したい。



左 図 2 観音寺市指定史跡青塚古墳の詳細位置図

右 図 3 観音寺市指定史跡青塚古墳の測量図（いずれも観音寺市 2019 を一部改編）

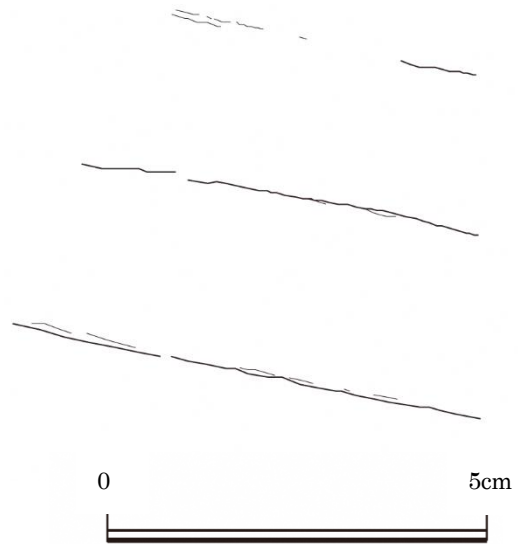
## 1. 青塚古墳出土石棺及び石室破片の線刻について

本資料については、石棺破片の外面の合わせ口に三ヶ所、線刻が施された箇所があることを確認した（線刻①）また、石室破片には九ヶ所、線刻が施された箇所があることを確認した（線刻②）。

線刻① 石材は阿蘇溶結凝灰岩製。幅が約 1mm の条線を 3 本以上線刻しているが、何を表現しているかは不明である。



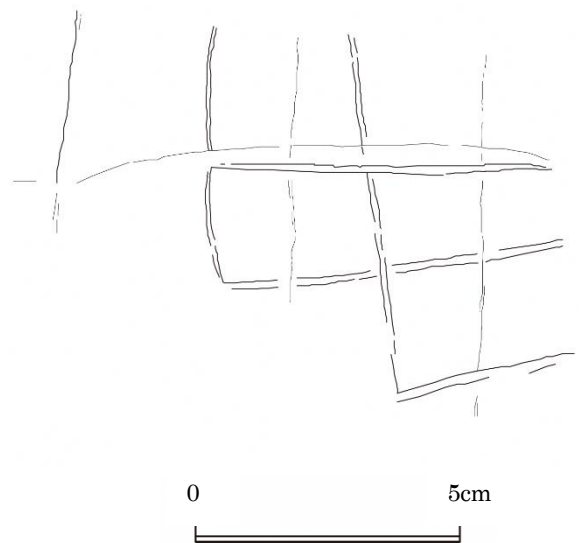
写真1 線刻①



線刻② 石材は非阿蘇溶結凝灰岩製。安山岩製か。幅が約 2mm の条線を 4 本以上線刻し、幅が約 1mm の条線を 5 本以上線刻しており、格子文を構成していると解釈した。



写真2 線刻②



## 2. 青塚古墳出土石棺及び石室破片の解釈について

本報告で紹介した線刻①については破片資料であり全体像が不明であるものの、線刻②については格子文の存在が注目される。香川県内においては、善通寺市の岡11号墳（時期不明）、岡古墳群夫婦岩1号墳（時期不明）でも確認されている。特に、後者は天井に描かれた壁画、天井壁画と呼ぶべきものであり、現状では、古墳時代の日本列島で40数例しか確認されていない中での1つとなる（福田2024）。

なお、線刻②については、5世紀中葉から後葉にかけて築造された古墳から出土したものである。築造時期が明らかな格子文としては、全国的に古い時期のものであり、この時期の横穴式石室に対する線刻壁画ならば、極めて稀有といえよう。

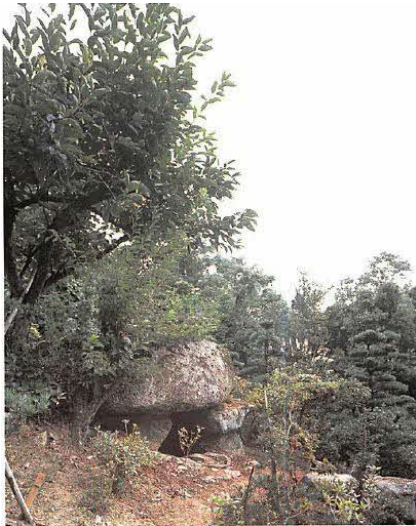


写真3

岡古墳群夫婦岩1号墳 墳丘全景



写真4

岡古墳群夫婦岩1号墳 後室天井 格子文

(いずれも熊本県立装飾古墳館 1999)

## 3. おわりに

香川県では、これまで帰属時期が不明な装飾古墳が多く、時期が明らかな古墳は6世紀後半から7世紀にかけてのものが多かった。今回の報告により、香川県の装飾古墳が5世紀代に遡ることを確認でき、さらには横穴式石室に線刻された可能性を指摘した。

また、従来から阿蘇溶結凝灰岩製の石棺を有することは確認されていたものの、新たに見つかった石棺（片）に線刻を有することも新たに確認できた。同じく阿蘇溶結凝灰岩製の石棺出土で知られる香川県高松市の長崎鼻古墳、観音寺市の丸山古墳とはやや異なるものの、青塚古墳には内陸の河川の水運を掌握した被葬者像が想

定でき、阿蘇溶結凝灰岩製の石棺の稀少性を再評価するものだ。

最後に、本報告で紹介した石棺破片及び石室破片に新発見された線刻壁画が、今後、当該地域の首長墓である青塚古墳の更なる価値付けに寄与することを望む。

## 謝辞

本資料の掲載について、下記の方々・諸機関には、現地確認及び資料実見の際、大変、お世話になりました。末筆ではありますが、深く感謝申し上げます。

井出耕二、信里芳紀、丸本啓貴、観音寺市教育委員会事務局文化振興課（五十音順・敬称略）

## 文献

観音寺市教育委員会 2019 『市指定史跡 青塚古墳確認調査概報』 香川

熊本県立装飾古墳館 1998 『平成 10 年度後期企画展 佐賀県・長崎県の装飾古墳 全国の装飾古墳シリーズ 4』 熊本

熊本県立装飾古墳館 1999 『平成 11 年度後期企画展 中国・四国地方の装飾古墳 全国の装飾古墳シリーズ 5』 熊本

古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ 2013 『古墳壁画の保存活用に関する検討会装飾古墳ワーキンググループ報告書』 東京

坂口圭太郎・嶋田博紀・村上光治「全国の装飾古墳一覧（中間報告）」2018 『熊本県立装飾古墳館研究紀要 14』 熊本

福田匡朗 2024 「日本における古墳時代天井壁画からの考察」『宮本一夫先生退職記念論文集 東アジア考古学の新たなる地平（下）』宮本一夫先生退職記念事業会 福岡